

2016年10月28日

大阪産業大学附属高等学校

2015年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校

学校関係者評価委員会

10月26日に学校関係者評価委員会（8名中7名の委員が出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭・文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2015年度 学校評価について

体育祭・文化祭の動画、学校評価の記載に関して、特別活動を重視して取り組むことによって生徒の自尊感情を高め、学校の雰囲気は良くなっているとの評価を受けました。「当日たまたまサッカー部員と話をする機会があった」として、現在、府ベスト16に残っている戦績とともに180名を超える部員で活動していること、挨拶をきちんとしていたことが学校関係者評価委員から話題にされました。

本校の大きな課題となっている「主体的に学習に取り組む」ことに関して、日常の勉強時間が足りないことが指摘され、指導の強化が学校関係者評価委員からも求められました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者から

アンケートに関して、「授業が分かりやすいかどうか」との観点に加え「勉強ができるようになったかどうか」との観点をもっと加えるようにしてほしい、またアンケート結果に基づき「学校は、こういう改善をしていく」とのメッセージが生徒にもっと伝わるようにしてほしいとの意見が出されました。

現在、平日に実施している文化祭を日曜日の実施にし、多くの人に実際に来校してもらって、学校の姿を知ってもらうことはできないものかとの意見も出されました。

B. 近隣地域住民から

本校チアリーディング部、ダンス部が、城東区の SARUGAKU 祭、地元地域のすみれ祭りに参加していることが地域住民の方から報告され、また、クラブが実施している校門で挨拶運動は「歩いていても挨拶してくれる」との評価を受けました。

一方で、高齢者の多い地域であるとして、通学バスで鞆を隣の席に置いているとの声が寄せられたことがあったとして、さらなる通学マナーの向上が求められました。

C. 大阪産業大学の教員から

大学進学のことをさほど気にしなくても高校生活を送れることが附属高校の利点だが、基礎学力をしっかりと付けるようにしてほしいとの要望が出されました。また、「しなくてはならないことは、きちんとできる」社会人基礎力も併せて身に付けるように指導してほしいとの意見が出されました。